

事例② 「自他の理解能力」を高める実践 [小学校第3学年：国語]



■ 山田小学校第3学年では、「自他の理解能力」を高めるために、国語の単元「まとまりに気をつけて読もう（ありの行列）」の授業で、次のような学習活動や評価活動の工夫を行いました。

2つの主眼

- ウイルソンがどんな方法で調べ、何がわかったのかを本文から読み取り、段落を意識しながらまとめる。
- [自他の理解能力] ウイルソンが行った実験・観察をペアで話し合い、互いの考えのよさを認める。

学習活動の工夫

- ペアで絵図上のありカードを操作・検討させることで、ウイルソンが行った実験・観察の大事なところを本文から読み取らせる。
- 代表ペアの読み取った内容に付け加えをさせて、再度ペアで確認させることで、互いの考えを認め合わせながら、正しい読み取りをさせる。

評価活動の工夫

- [学習の見通し]では、前時の学び方を振り返らせ、本時学習の見通しを促す発問をすることで、本時学習の見通しを共通理解させる。
- [振り返り活動]では、振り返りシートに学習内容(めあて)と学び方(学習の見通し)を自己評価する欄を設定し、価値付けさせる。

1 単元名	まとまりに気をつけて読もう「ありの行列」	
2 本時の展開	本時(5/11時間)	
学習活動・内容	教師の手立て	学びをつくり出す能力 【自他の理解能力】
1 本時のめあてや学習の見通しをもつ。 (1)前時の学び方を振り返る。	○前時の流れ図を振り返らせることで、本時のめあてへせまらせる。	
<p>[めあて] ウイルソンが行った実験・かんさつを絵図を使って正しく読み取る。 [学習の見通し] ①ありカードを動かすことをイメージして本文を読む。②ありカードの動きを出し合い、協力して説明をつくる。③ペアの発表に「つけくわえ」をする。④再度ペアで確かめる。</p>		
(2)学習の見通しをもつ。 ・今日もペアで考えを出し合う方法で、友達と似ているところや違うところを見つけながら学習を進めよう。	◎前時の学び方を振り返らせ、学習の見通しを考えることへの意欲を高めさせる。 ◎学習の見通しを引き出す発問をし、①～④を確認させることで、学習の見通しをもたせる。	◎紹介された前時の学び方を振り返ることで、どのように学習を進めていくか意欲を高める。
2 ペアで本文の叙述をもとに説明をつくる。 (1)役割と絵図を確認する。 (2)本文を確認しながら、ありカードを動かす。 ・「ようやく」と書いてあるから、少し迷っているようにありカードを動かしてみよう。	○接続詞に着目させ印を付けさせることで、形式段落を意識させる。 ○観察の文を順番に掲示し、叙述に即して学習を進めさせる。 ◎ペアの役割を読み役と操作役で分担させることで、関わりをもたせる。 ○絵図上でありカードを動かしながら本文を確認させることで、観察の様子を読み取らせる。	◎読み役と操作役で、互いに思いを伝えたり、聞いたりする。
3 代表ペアの発表から全体で正しい説明をつくる。 (1)代表ペアが拡大絵図で発表する。 ・「一匹のありが」と書いているので一匹のありがを動かします。(代表ペアの発表) (2)付け加えを発表する。 ・「ようやく」と書いてあるから迷っているようにありカードを動かすといいと思います。(つけくわえの発表)	○代表ペアの発表に理由を付けさせることで、読み取った根拠を明らかにさせる。 ◎付け加えをフロアに発表させることで、互いの考えのよさに気付かせ、正しい読み取りに近づけさせる。	
(3)再度ペアで話し合いウイルソンが行った実験・観察を確認し、文にまとめる。	○付け加えで修正したことや実験とわかったことを話し合わせることで、学習をまとめさせる。	◎自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、間違えや見落としているところに気付く。
4 本時を振り返り感想を話し合う。 ・ペアで学習を進めたので、正しく読み取ることができた。	◎学習の見通し③④を3段階で振り返らせた後、どのように学んだのかを記述させることで、本時の学び方を価値付けさせる。	◎自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする学び方のよさを感じる。

「自他の理解能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

1 前時の学び方を振り返り、よさを共有する。

- (1) 導入時に学び方の振り返りを紹介
- (2) 学習の見通しを考えることへの意欲を高める発問



〇〇さんは、前の学習で「友達の話をおきくと、よくわかりました」と書いていました。みなさんは、今日の学習で、どんな所に気をつけていきたいですか。

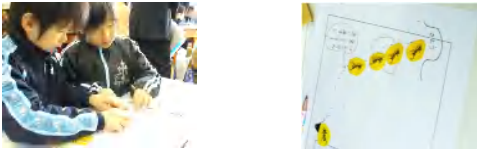


「学習の見通し」

- ① ありカードを動かすことをイメージして本文を読む
- ② ペアでありカードの動きを出し合い、協力して説明をつくる
- ③ 代表ペアの発表に「つけくわえ」をする
- ④ 再度ペアで確かめる

2 絵図上でありカードを使い、ありの動きを具体的にイメージして、説明をペアでつくる。

- (1) ありの動きをイメージした本文読み
- (2) ありの動きの出し合い
- (3) ありの動きを検討し、説明を作成する活動



次の文は「すると、ありの行列は、石の所でみだれて、ちりちりになってしまいました。」です。



ちりちりになったんだから石の所でいろいろな方向へありを動かそうと思うけど。どうかな？



そうだね！「ちりちり」と書いてあるからありがぼっとちるみたいに動かしてみよう。



「ようやく」と書いているから時間をかけて見つけたようにありを動かした方がいいと思いました。



〇〇さんの「つけくわえ」のおかげで、新しいことに気付いたり、考えが深まったりしたわ。

3 全体で交流し、正しい説明をつくる。

- (1) 拡大絵図を使った代表ペアの発表
- (2) フロアーからの付け加え
- (3) 再度ペアで考えを確認



考えたこと
〇〇くんたちもわたしとおんなじまちがいをしていることがわかりました。〇〇くんたちが、前日で発表してくれなかったら、あたしのまちがいがわからなかったです。

4 「学習の見通し」を段階的に振り返り、価値付ける。

- (1) 「学習の見通し」③④の振り返り
- (2) (1)をもとにした自由記述の振り返り
- (3) 3名の児童の発表と教師の価値付け



伝えたり、聞いたりして、学習を進めると、新しいことに気付いたり、考えが深まったりしますね。

この実践のよさ

- ◆ 本実践のよさは、前時の学び方を導入で振り返らせ「学習の見通し」の共通理解を図っているところです。自他の理解能力を高めるために、ありカードでありの動きをペアで出し合い・検討する活動やペアで考えをまとめた後、代表ペアに拡大絵図を使って発表させ、付け加えをさせる活動、全体で交流した後、再度ペアで自分たちの考えを確認する活動と工夫しています。このことが、友達の考えのよさを取り入れながら、自分の考えに新しいことを付け加え正しく読み取らせることに効果を発揮しています。
- ◆ このような学習活動の工夫は、コミュニケーション能力や役割把握・認識能力を高めることにも効果があります。
- ◆ 「学習の見通し」の振り返りでは、振り返りシートにめあてと学習の見通しを振り返る欄を設定しています。学習の見通しの③④を「◎・○・△」で自己評価し、そのことをもとに自由記述で振り返るようにしています。子どもは振り返りシートに「友達が前で発表してくれなかったら、私の間違いがわからなかったです。」と自他の理解能力を価値付けています。